

意到随筆

取締役最高投資責任者 草刈 貴弘

先日、息子が提出した一学期の学校課題を見た際に思わず笑みがこぼれた。課題は新聞を作ることで、新聞名を自分で考えてつけるというものだ。教室内に貼られている他の児童の新聞を見ると概ね二つのパターンに分けられる。小学校の名をそのまま新聞の名前にしてしまうか、自らの名前を堂々と載せるかである。多くの児童が前者を選ぶ傾向があり、息子に話を聞いてみると理由は可愛らしいほど単純で、特に考えることもなく周りがそうだからメンドクサイということらしい。後者を選ぶ児童は内容からも自己の考えがはっきりと打ち出されており、字が上手く恐らく学校生活でもしっかりしているのだろうと勝手に想像してしまった。読みやすいような文字の配列や見出しを装飾する工夫など、いかに見てもらうか、いかに自分の考えを伝えるか自分の頭で考えているのだなと感心させられた。

ところで、私が息子の新聞をほほえましく思ったのは、他の児童とは違い独特のタイトルであったからである。小学校の名前に続けて日経新聞とついていたのだ。普段、我が家で目にするのは日経新聞で、家庭内にある書籍なども経済に偏っているからだろう。それにしてもタイトルに日経と入っている子供は一人だけで思わず笑ってしまった。当然ながら記事には経済のことなど全く触れられていない。そのことも笑みの要因なのだが、知らぬうちに影響を受けているものだなと内心嬉しかった。これから始まる金融教育において、経済というものが文字だけとはいえず身近にあると理解しアレルギーが起きないことは重要だと思っているからだ。

環境と言え我々を取り巻く社会の空気感、世間と呼ばれるものがある。その変化をより強く感じるようになったのがコロナ禍になってからである。直近では緊急事態宣言とオリンピックにおける変化が大きい。緊急事態宣言については、如実に空気の変化がある。ワクチン接種が進んでいることもあるのだろうが、多くの人が宣言そのものに慣れてしまっており、人々の移動制限がほとんど行われていない。首都圏の話ばかりで恐縮だが、公共交通機関は宣言前とほとんど変わらず混雑している。需要の低下で減便している影響もあるだろうが今年の宣言下では見られなかった光景である。テレワークの推奨、在宅勤務の比率70%以上などの明確な目標があった昨年とは打って

変わり、今年は掛け声だけで今一つ実行に至っていない。

オリンピックに関しては、開催に対してネガティブに考えていた人の多くがポジティブに変化したことが先日の世論調査でも明らかになった。沿道での応援は控えるようにアナウンスされていたが、自転車競技やマラソンといった市街地に出て競う種目については想定以上の人出になっていた。私自身もこの状態でオリンピックをやることに疑問を感じていたが、アスリートの姿に感動しポジティブに変わった一人ではある。もちろん納得がいかない点は多々ある。オリンピックは無観客であったが、プロスポーツでは観客数を制限して開催していることや昨年は中止された夏の甲子園は開催されるなど、国内で対応が分かれていることは正直言って理解できない。これは今後議論されるだろう経済的な負担などにかかわってくる。少しでも観客を入れておけばよかつたのではないかという意見が出ると予想しているのだが、それは都内の小学校では、これまで支給されていたノートがオリンピックによってお金がなくなり配布できないと学校から説明されているからである。子供の教育予算を削るほど東京都が既にそれほど財政的に厳しいということであれば、国の負担の発生などが大きな政治的争点の一つになるだろう。

対応にチグハグさを感じるのはこれだけではない。昨年行われたGO TOトラベルは7月後半から開始されていたし、GO TO Eatは9月からである。ちょうど今頃行われていた経済対策が今年は全く行われていないのである。ワクチン接種、診療報酬や医療体制、権限の明確化を早期に対応しておけば、完ぺきではないものの他国の事例を見れば経済活動という点において、今頃は景色が変わっていた可能性すらある。どこかパスのかみ合わない試合を見ているようで、もどかしいと感じるのは私だけではないはずだ。

夏休みの宿題に新たな新聞の課題があり、今回はSDGsがテーマである。17のテーマについて説明すると、なぜ解決できないのかと問われ答えに窮してしまう。子供の質問は本質を突き、現状の矛盾を鋭く指摘する。これまでの流れを無視せず、とはいえ未来志向で過去を引きずるのではなく、全体が一歩前に進まなければならない。皆さまのさわかみファンドもおかげさまで23期を迎え、この時代の変動期に結果を残すことにこだわっていきたいと考えている。